



思齊のしせい

大阪府立思齊支援学校 支援室だより
第45号 令和3年7月19日
支援室

前回から始まった「自閉症スペクトラム」をテーマにした連載。2回目の担当は高等部の相原です。44号では自閉症スペクトラムの基本的な情報をまとめましたので、今回は自閉症児と関わる時によく耳にする“こだわり”に焦点を当てて書いていこうと思います。

どんな人にも少なからず“こだわり”があると思います。その中でも自閉症児の場合は、特定のものとやルールに強いこだわりを示し、自分の関心ややり方、ペースを維持することを最優先したい志向が強く出ているケースが多いです。なかなか次の活動に移ることができない、本人を見てこだわりを止めるべきなのか、それとも気が済むまで続けさせたほうが良いのか、何が正解かわからなくて困ったり悩んだりする経験をした方も多いのではないかと思います。

まず、そもそもなぜ“こだわる”のでしょうか。“発達障害ガイドブック改定新版”の言葉を引用すると

自分が慣れ親しんだもの、自分の頭に入っているパターン以外は許さない、という態度がよく見られますが、これらをどのように解釈したらよいのでしょうか。大人になって自伝を出版されている方の本の中に、そのヒントが隠されていると思います。ある方は、自分の狭い精神世界が壊されることに恐怖を感じ、一方いつも同じであれば安心できるということだったそうです。

こだわり行動は本人の精神世界が不安に満ちているときのものであり、不安だから安定した自分だけの世界に入るといえることでしょう。

(自閉症の僕が跳びはねる理由 東田直樹)

こだわりは、安心を求める行動。自分の決めたルールや状況以外の場面でも、「これでも大丈夫!」「こっちでもできる!」と思える経験を積み重ねていき、“安心”を増やしていくことが大切です。

次に、“こだわり”にとられすぎて、子どもの内側に秘めている思いになかなか気づくことができなかったわたしの経験談を紹介します。

バスで帰りたいBちゃん

いつもバスに乗って登下校していたBちゃん。時々保護者のお迎えで帰ることがあったのですが、それを知らせると「バス～」と大泣きします。担任は、バスで帰ることにこだわっていると思い、絵カードを使った予定表を作ったり、車の写真にBちゃんの写真を張り付けてみたり...色々な手立てを考えました。それでも毎回「バスー!」と泣き続けます。でも、バスが行ってしまうとスッと泣き止み、何事もなかったように車で帰っていました。



の様子等から、絶対にバスで帰りたい!とこだわっていただけではなく、いつもバスなのに車と言われ、バス?車?と不安になったのかもしれないと気付きました。不安な気持ちにしっかり寄り添いながら、車で帰る経験を繰り返していくことで降園方法が変わっても泣かずに対応できるようになりました。

※一部内容を変えています。

自分の気持ちをうまく伝えることが難しい児童生徒が多い中、泣いたり怒っている本当の理由をすべてわかってあげるのは難しいですが、子どもたちの様子をよく観察したり、「これが原因かも!」「もしかしたら…」と色々な可能性を考えて対応することが大切だと改めて気付かされた経験でした。